

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

幼年発達支援コース  
／木村 直子

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## Ⅰ. 学長の定める重点目標

## Ⅰ-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

## 1. 目標・計画

一昨年より豊かな教育実践力を身に付けた教員を養成することを目的に、学生一人ひとりの理解力を十分に考慮した上で、広い視野をもてるような趣向をこらす努力をしてきた。具体的には、学生たちの理解の深まるような実践ドキュメンタリー(VHS)などを活用し、ライブスーパーヴァイズを実施した。その結果、学生たちの学びは深まったように感じたが、実践力を身につけることに関しては、更なる工夫が必要であると考えている。

本年度は、これまでの具体的実践に加え、以下のようなことに力を入れて取り組みたい。

○授業方法については、学生一人ひとりが主体的に考え、適切な発言をすることのできる力をつけることを目的に、これまで以上に対話型の授業を行う。

○成績評価については、オリエンテーション時に明確な評価基準を学生(学部生・院生)とともに設定し、自分たちの授業であるという主体性を育む。

○授業時間以外の実習やプロジェクト活動ともリンクさせ、理論と実践を止揚するようなディスカッションを試みる。

## 2. 点検・評価

①授業方法については、学生一人ひとりが主体的に考え、適切な発言をすることのできる力をつけることを目的に、演習や実習科目のみならず講義科目においても対話型の授業を始めた。本年度の新しい取り組みとして、学部の授業において、保育相談支援のロールプレイを行ったり、大学院の授業において全講義の回において予習の課題を課したり、小グループにおけるプレーストリーミングを行い、より主体的な学びを促すことができたと考えている。

②成績評価について、オリエンテーション時に明確な評価基準を学生(学部生・院生)とともに設定し、自分たちの授業であるという主体性を育むことを試みた。さらに、採点した試験にコメントを寄せて返却し、学習内容の振り返りを促すことで知識の定着を図った。

③授業時間以外の実習やプロジェクト活動ともリンクさせ、理論と実践を止揚するようなディスカッションを行った。

## Ⅱ. 分野別

## Ⅱ-1. 教育・学生生活支援

## 1. 目標・計画

○学生が主体的に授業に参加できるよう、討論やライブスーパーヴァイジョン等を取り入れた対話型の授業を行いたい。

○複数担当の授業に関しては、講義内容の関連付けができるよう、連携を図る。

○学生の進路、学習や将来に関する悩みなどに随時応じることによって、学生の充実した教育環境を整えるよう努めたい。

○教授・准教授の先生方から教育・学生生活支援の方法を学び、今後の教育・学生生活支援のあり方に役立てたい。

## 2. 点検・評価

- ①学生が主体的に授業に参加できるよう、討論やライブスーパーヴィジョン等を取り入れた対話型の授業を行っている。
- ②オフィスアワー以外の時間も使用し、履修生の学習相談を行い、学習意欲を高める工夫を行った。担任となっている学年や自分の研究室に所属するゼミ生のみならず、他コースや他専修の学生の相談にのる機会も多かった。
- ③学生の進路、学習や将来に関する悩みに対応する機会が多く、今後より充実した教育環境を整えるよう努めたい。
- ④今年度はFDの公開授業として学部の「養護原理」の授業を行った。教授・準教授の先生方に多数参観して頂き、授業の構成方法や教育に関する貴重な意見や助言をたくさん頂くことができた。
- ⑤複数担当の授業のみならず、コース・専修内の複数の専門分野の講義内容の関連付けを強化するために、ディスカッションや綿密な打ち合わせを行った。

## II-2. 研究

### 1. 目標・計画

- 研究結果の公表・公開を積極的に行う。
- 学内外の研究助成の公募に積極的に申請し、特に学外資金の調達に重点を置く。
- 講座の教授・準教授の先生方の研究を参考にして、幼年発達支援講座の講師として適切な研究テーマにより、研究を進める。
- 学内外の先生と連携して、幼年発達支援コースの学部生・院生、さらには地域の関係機関にかんげんできるような研究テーマに取り組んでいきたい。

## 2. 点検・評価

- ①研究結果を複数の学会で公表した。
- ②フィールド研究の成果発表会において、ポスター発表を行った。
- ③発達につまづきのある幼児への個別指導に関する研究を、個人のレベルのみならず、鳴門市教育委員会幼稚園教育改善事業の委員として促進に努めた。
- ④採択されている文部科学省科学研究費若手研究(B)を積極的に行っている。
- ⑤学外の教員や他専門領域の研究者と外部資金を獲得し、共同研究をすすめている。
- ⑥新しい研究テーマ「就学前の子どもの学びと育ちを支える包括的プログラムに関する研究」で科研費「挑戦的萌芽研究」に応募した。

## II-3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- 大学運営に関して積極的に関心を払う。
- 講師という役職上、大学運営等に関しては、知識や経験も浅く、主体的に動くことは難しいが、積極的に講座の教授・準教授に指示を仰ぎ、前向きに取り組みたい。
- 大学院の定員充足のために、講師という立場でできることを考え、前向きに取り組みたい。

## 2. 点検・評価

- ①学部教務委員として、また関係する専門部会において、大学運営等に関して参加している。
- ②学会等において、積極的に他大学の学部学生に対し、本学大学院進学を勧めている。
- ③本学における保育士養成に関してカリキュラムの改変等における教務事項の整理に貢献している。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- 講座の教授・準教授の先生方の附属学校や社会との連携活動の方法に積極的に関心を払い、それを参考にし、今後の自分の活動に役立てたい
- 附属学校教員との連携に関する具体的な活動に関しては、講座の教授・準教授に積極的に指示を仰ぎながら、前向きに取り組みたい。
- 発達障害の早期発見及び早期療育について助言したり、実施する機会をもつ。
- 幼年発達支援という講座の冠に適した地域貢献のあり方について、講座の教授・準教授の先生方から学生支援、地域連携活動の方法を学び、今後の自分の学生支援、地域連携活動の方法に役立てたい。

### 2. 点検・評価

- ①附属幼稚園との連携によって講座において実施しているプロジェクトに参加した。
- ②鳴門市行政における外部評価委員として事業仕分け業務等に携わった。
- ③鳴門市指定管理者選定委員会において委員長を務めた。
- ④台北市立教育大学からの留学生の指導教員となり、留学生の生活及び学習支援を積極的に行っている。台北市立教育大学の諸先生方がいらした際には、ディスカッションの場を持つことができ、台北の幼児教育の現状を知るのみならず、今後の交流及び連携の可能性についても話し合えた。
- ⑤日本福祉のまちづくり学会において査読委員を務め、2本の論文の査読を務めた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

- 特に以下の4点で貢献した。
- ①文部科学省科学研究費基盤(B)の共同研究者として研究をまとめると同時に、文部科学省科学研究費若手(B)の代表研究者として、発達障害や「生きづらさ」を感じる子どもの「ウェルビーイング」を担保する保育・子育て環境や社会資源についての研究を進めた。
  - ②社会貢献として、鳴門市行政の外部評価委員等を務めることで、これまでの子育て支援体制の一端ではなく、市行政全体の中での保育子育て支援の位置づけや市行政が鳴門教育大学に期待していることの全体像を理解できた。
  - ③学内の年間担当授業科目が多く、年間で19コマ担当している。特に、保育所実習・施設実習については、実習のコーディネートから事前・事後指導、巡回指導にあたっており、十分に貢献していると言える。
  - ④今年度より学部教務委員となり、授業カリキュラム・履修相談から学部講師の調整、保育士養成のカリキュラムの変更等、学部教務の全体像を把握するのに尽力した。
- 本年度に関しては、教育・研究・社会貢献ともに精一杯努力したように思う。